

「富富富」は、高温条件下でも高い1等比率を維持していますが、収量の確保には、適切な育苗管理、適正な基肥施用量、生育ステージに応じた水管理が重要です。適切な栽培管理で、本県を代表するブランド米に育てましょう！



1 育苗管理

- ・育苗日数が長く、葉齢の進んだ老化苗を移植すると、初期茎数が少なくなります。活力の高い苗に仕上げるため、育苗日数（播種日から田植日）は19日以内を目安にしましょう。
- ・富富富はコシヒカリに比べて芽の伸びが遅いため、コシヒカリより1～2日長く浸種しましょう。また、浸種水温は10～15℃を確保し、浸種積算温度120℃程度となるように確実に浸種しましょう。
- ・浸種完了の目安は「種子粉の胚乳がアメ色で透明になった頃」とし、確認してから催芽を行いましょう。
- ・近年は育苗期間が高温傾向にあるため、積極的に換気を行い、がっしりとした苗に仕上げましょう。

2 適切な田植作業の実施

- ・田植時期が早いほど乳白・心白粒が発生し、品質・食味が低下する傾向にあります。品質・食味を良くするため、田植は5月15日を中心に実施しましょう。
- ・苗を購入している場合は、種子消毒剤と苗箱施薬剤の有無を必ず確認しましょう（農薬の成分使用回数にカウントします）。
- ・過去に紋枯病が多発した圃場には病気の要因となる菌核が残っており、発生リスクが高い状況が複数年続きます。ブーンレパード箱粒剤（紋枯剤入り苗箱施薬剤）を施用する等の対策を継続して行いましょう。
- ・栽植株数70株/坪以上、植付本数3～4本/株、植付深さ3cm程度となるよう田植機を調整しましょう。
- ・苗丈が短いため、移植した苗が水没しないよう、圃場の均平や水管理を徹底しましょう。

流通基準や品質目標を遵守し、高品質な「富富富」の生産に努めましょう。

<流通基準>

- ・検査等級：1等
- ・化学合成農薬の成分使用回数：12以内

<品質目標>

- ・玄米水分 … 14.5～15.0%
- ・玄米蛋白含有率 … 6.4%以下

3 適正な基肥施用

これまでの単収に応じて施肥量を目安から増減してください。
低収の場合は、施肥量を1割程度増やしましょう。

表 基肥施肥量の目安

土壌区分	基肥一発体系		分施肥体系	
	肥料名	施肥量	肥料名	施肥量
砂壌土	富富富専用 (21-10-19)	30kg/10a	基肥 206 (12-20-16)	27kg/10a
壤土・黒ボク土		25kg/10a		21kg/10a
粘質土		22kg/10a		19kg/10a

- ・圃場に応じて適正量を施用しましょう。
- ・ただし、施肥量が多すぎると右図のように収量・品質の低下を招くので注意しましょう。

△施肥量が多すぎると…→**過剰籾数**となり、

↓

- ・登熟のばらつきが大きくなる
- ・くず米が多くなり、収量は増加しない
- ・乳白、心白粒、青未熟粒が増える
- ・玄米蛋白含有率が高くなる

↓

収量・品質、食味が低下



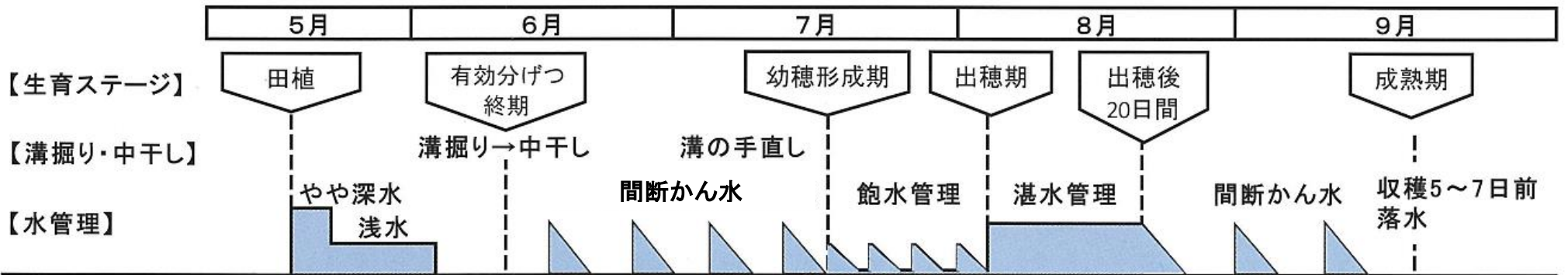
4 水管理のポイント

- ・田植後3日間程度はやや深水で活着を促進し、活着後は浅水管理で、初期茎数の確保に努めましょう。
- ・過剰生育防止のために、田植後4週間までに中干しを開始し、強すぎる中干しは避け、軽く沈む程度に干しましょう（右写真→）。
- ・葉色維持のために、間断かん水の落水期間はコシヒカリと同程度で行い、幼穂形成期から出穂期まで飽水管理を行いましょう。



写真 適切な中干し後の状態

図 生育ステージに応じた水管理



5 化学合成農薬の使用成分回数について

- ・富富富は「**化学合成農薬の使用成分回数は12以内**」を厳守する必要があります。
- ・農薬の使用にあたっては登録内容を遵守するとともに、必ず成分数を確認しましょう。
- ・除草剤の効果を上げるため、除草剤散布後5日間は5cm程度の水深を保ち散布後7日間は落水しないでください。

○現在までの化学合成農薬の使用状況と今後の使用予定を下欄に記入しましょう。

- ・「生産計画・記録簿」に記入した内容から変更がないか確認しましょう。
- ・成分数は、栽培こよみや農薬のラベル、農林水産省のHP「農薬登録情報提供システム」(<https://pesticide.maff.go.jp/>)を参考に記入してください。
- ・紋枯病防除にバリダシン粉剤DL、バリダシン液剤を使用した場合は、成分使用回数に含めません。

【使用・使用予定薬剤一覧】

区分	農薬名	成分数	区分	農薬名	成分数
育苗関係			本田防除		
	苗箱剤				
除草剤					
				合計	



～春の農作業安全運動展開中～ 3/1～5/31
農作業事故ゼロを目指して事故防止対策を徹底しましょう

次回の「富富富」通信(第2号)は、7月10日頃の発行予定です。